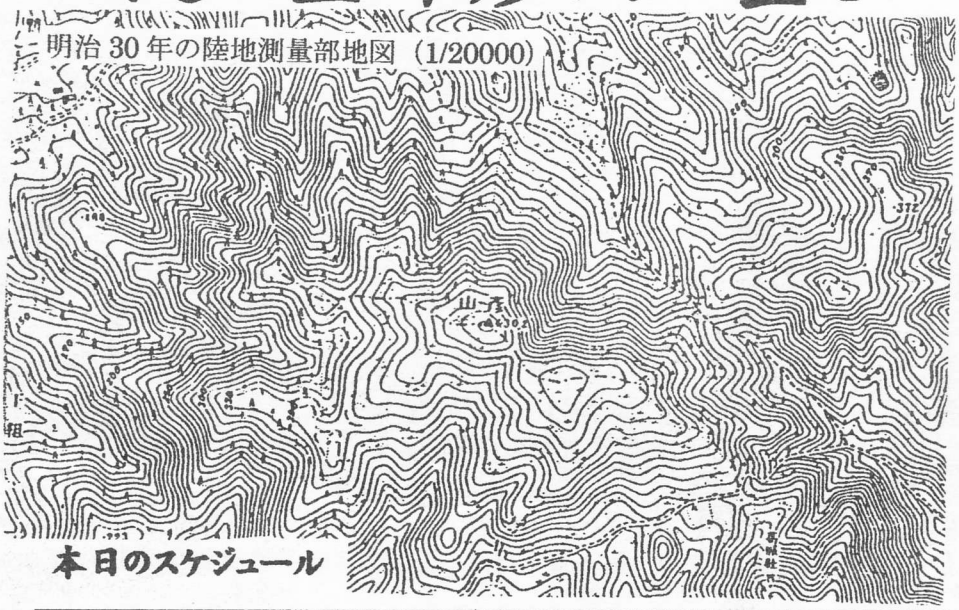
備陽史探訪の会主催2月例会

謎の霊峰彦山に登る



本日のスケジュール

◎9時駅前発⇒鞆鉄バス「水呑大橋」バス停下車→○9時30分洗谷貝塚→○9時50分洗谷銅山跡→○10時30分比古左須伎神社→☆12時頃彦山山頂（標高430m・1時間休息）→○午後2時半光林池（大休止3時発）→《甲谷城跡》→◎3時30分六本堂着・解散

案内人 田口義之・上原寿美子 ゲスト 小林定市

備陽史探訪の会

〒７２０－０８２４福山市多治米町５丁目19番８号

電話（084）９５３―６１５７

平成14年(2002)2月10日実施※雨天17日に延期

主な見学地

一、洗谷貝塚

縄文時代の貝塚遺跡で、県内最大規模を誇る。広範囲に遺物包含層が広がるが、正式な調査報告書が出ていないため、詳細は不明である。今回は小林さんのご好意で、出土遺物の一部を見学する。

二、洗谷銅山跡

江戸時代初期に野々口立圃が『草戸記』で触れた「かな山」の跡と考えられる。従来、立圃の言う「かな山」は、宝山（妙見山）に存在したと考えられてきたが、今回その跡は南側の谷筋に存在することが判明した。縦坑二ヶ所が存在する。

三、荒尾谷

現在、新県道やグリーンラインの建設で見る影もなくなったが、洗谷の西から西南にかけての谷あいは静かな景勝地で、福山城下の文人たちが清遊に訪れた場所である。かの『備陽六郡志』の著者宮原氏もここで青年期の鬱病を癒したという。

四、志田原

瀬戸町の一部で、南・西は熊野町、東は水呑町にする。水呑八幡の御神体を一時安置した場所と言う『叫八幡』や式内『比古佐須伎神社』が存在する。

五、比古佐須伎神社

延喜式内社、備後国沼隈郡三座のうちの一つで、かつては彦山の中腹に鎮座したが、明治時代の

中頃現在地に移転する。元は彦狭島命を祭神とし、江戸時代には「彦大明神」と呼ばれていた。元来彦山を御神体として祭った、古代信仰の名残を伝えたものと考えられる。

六、彦山

標高四三〇メートルの山で南を除いて三方から秀麗な山容を望むことが出来る。古代信仰の名残をとどめた山で、比古佐須伎神社の旧社地は、本来、この山を御神体とした「礼拝所（拝殿）」であったと考えられる。山頂南側に土器の散布する祭祀遺跡が存在したと伝えられるが、今回の下見では発見することが出来なかった。

七、光林池（こうりんじいけ）

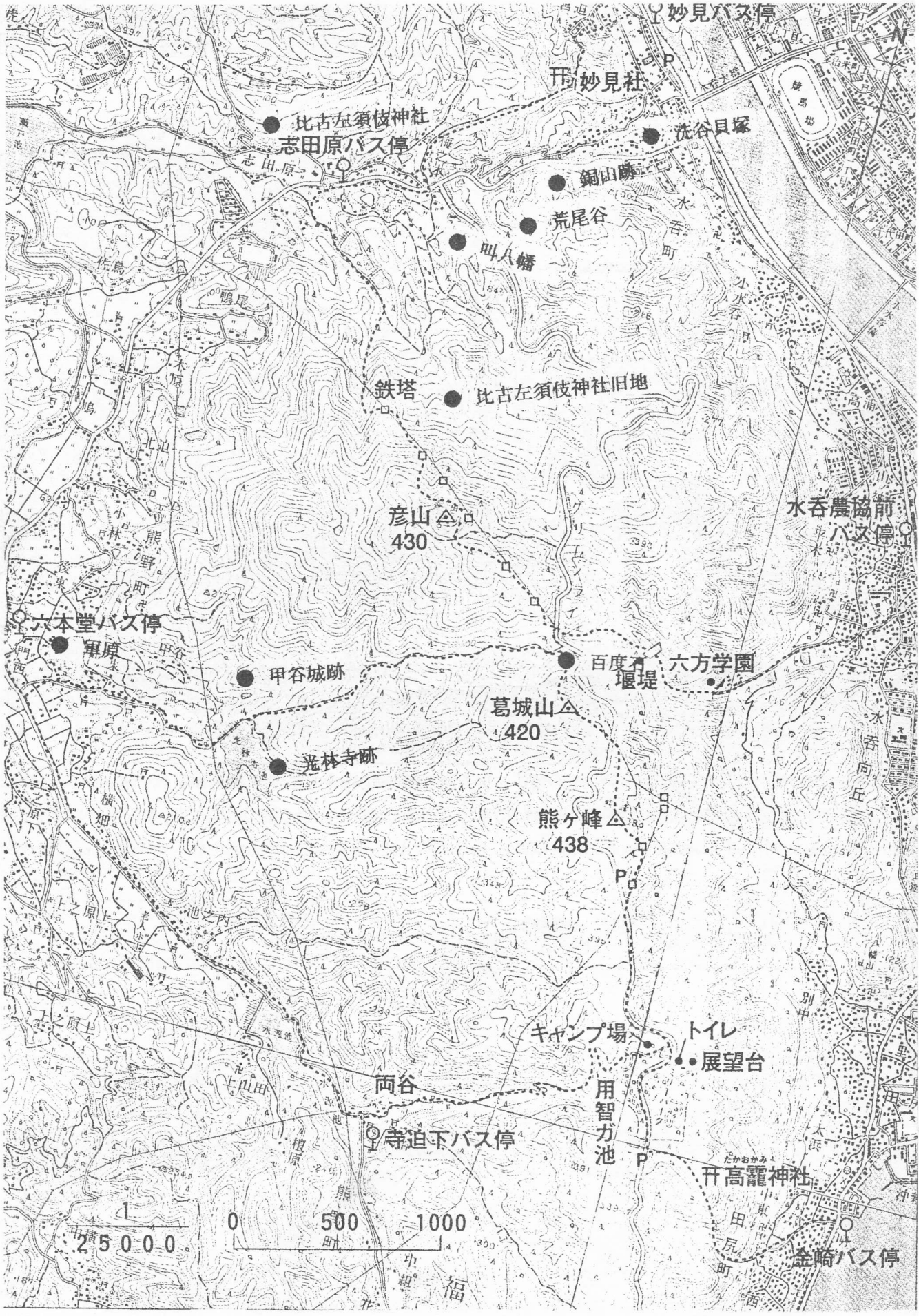
農業用のため池として昭和二六年に修築工事が完成し現在の規模となった。池の名は、中世の「光林寺」の旧跡に由来する。寺跡は水面下に沈んで現在みることは出来ない。『水野記』によると、室町時代の備後守護山名氏の菩提寺であったという。

八、甲谷（こうだに）城跡

今回は、時間と元気があったら見学する。コンパクトにまとまった中世の山城跡で、宮氏や渡辺氏が居城したと伝える。熊野から田尻へ越える街道の押さえに築かれた城郭である。

九、軍原（いくさはら）

戦国時代の合戦場の跡と伝え、かつては「人枡」と呼ばれる土塁で囲まれた高まりがあったと言う。伝承では、山田の領主であった宮長門民部左衛門尉信定が、この地で渡辺越中守兼と戦い、敗れて討ち死にしたと言う。


妙見バス停
妙見社
比古左須伎神社
志田原バス停
洗谷貝塚
銅山跡
荒尾谷
叫八幡
鉄塔
比古左須伎神社旧地
彦山
430
水呑農協前
バス停
六本堂バス停
軍原
甲谷城跡
百度石
堰堤
六方学園
葛城山
420
光林寺跡
熊ケ峰
438
キャンプ場
トイレ
展望台
両谷
用智ガ池
寺迫下バス停
高麗神社
金崎バス停
1
25000
0
500
1000
町